



タンポポさんのお世話ができます



これは、年中さんとたんぽぽさんの交流の一場面です。1月下旬から2月上旬にかけて、年中の3クラスと2歳児たんぽぽの4コースすべての子どもたちが交流を図るように計画をしています。

たんぽぽさんは、お母さんの手を離れて幼稚園入園へ向けての予行練習です。始めは、泣いていた子どもも、年中さんと一緒に遊ぶと、すっかり笑顔です。

年中さんは、たんぽぽさんが2か月後に入園してきたときの年長にあたりますから、その時に世話ができるようにということで計画しています。

見てください、年中さんが、たんぽぽさんの手を繋いで「大丈夫よ、私に任せて！」と言わんばかりの姿を。最初は緊張気味で、恐る恐るたんぽぽさんの手を繋いでいましたが慣れてくると、滑り台や三輪車で仲良く遊んでいます。年中さんが、

「危ないから滑り台を手を繋いで一緒に滑ろう」や「三輪車を後ろから押すからペダルを踏んで」と優しく声を掛けると、たんぽぽさんも楽しく応じています。年中さんも、三輪車や滑り台で遊ぶときは、自分の世界に浸り、楽しく遊んでいましたが、この交流の日だけは、年下のたんぽぽさんを弟や妹のように感じ、誰もが、遊具を優しく譲っています。誰一人として、「これは自分が使っているから貸さない」という人はいません。

たんぽぽさんも、時間が経つとすっかり慣れて、年中さんを頼っています。見ていて微笑ましいですね。ここが、筑女幼稚園のよいところだと思っています。

たんぽぽのお母さん方も、この交流の日だけは、僅かな時間でしたが、育児から解放され、自由な時間を過ごされたようです。家に帰ってお掃除をされた方、

茶話会や女子会で、子育ての話に盛り上がった方等、時間を有効に過ごされたことでしょう。



入園体験、心の準備はできたかな？

年中さんとの交流の時期に、来年度の新入園に備えて、少しでも幼稚園の雰囲気や園舎、教室（保育室）に慣れてもらうために、「どんぐり」教室の子どもを対象に、入園体験を実施しました。

ほとんどの子どもたちにとっては、すべてが初めての経験で、戸惑いが見られましたが、子どもたちは純粋です。直ぐに友達を作り一緒に活動することができました。

担当者は、親子、特に、主人公である子どもに喜んでもらうように、牛乳パックで作ったコマ、室内ゲームなどの遊びを計画しました。

牛乳パックで作ったコマについては、少し大きいので、子どもたちには難しいように思われましたが、何ということはありません。3歳児さんでも上手にしかも簡単に回すことができ、私の杞憂に終わりました。

面白そうなので、私もトライしてみると、予想以上によく回るので、どんぐりさんにとっては、いいお土産ができたようです。家でも回して遊んでいるかな？



1本のロープを使った親子の電車ごっこは、親子の絆を深める楽しい活動だったようです。教室では狭いため、遊戯室へ移動して、広い空間を思い切り走り回る姿を見ることができました。子どもたちも親子一緒という安堵感からか、楽しく元気に走り回るために、保護者の方の中には、息を切らした方もおられたようです。

キノコを用いた食育講座

4日(火)に、年中の保護者の方を対象にキノコを用いた食育講座がありました。年中担任が食育に力を入れていることから食育の一環として計画したものです。しかし、子どもたちがキノコを敬遠し、嫌いな子が多いということから少しでも好きになってほしいというのが大きな理由だったようです。遊戯室で大木町のJA大城方やキノコ生産者の方による講座で、キノコの効用やキノコを用いた簡単なレシピが紹介されました。

その後、親子でえのきだけ、ぶなしめじのもぎ取り体験と楽しいダンスで講座が終わりました。昼食時に、キノコスープが提供され、味の良さにお代わりする年中さんもいて、年中さんは、キノコを身近に感じたようです。